

今号の主な記事

- ◇持続可能な地域づくりへ……2面
- ◇市職員の募集 ……………2面
- ◇スポーツ振興審議会委員を公募……2面
- ◇環境まちづくりフォーラムを開催……4面
- ◇保健だより……………8面



折り紙を楽しみながら日本文化に触れてもらい、国際交流を図っています

多文化共生

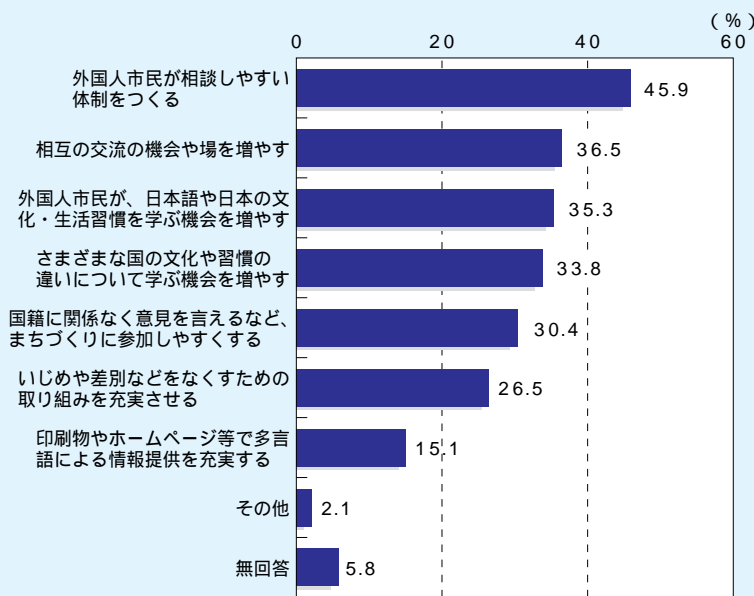
質問 国籍や言語、文化の相違に関係なく皆が安心して暮らせるまちづくりへの取り組みを進めるため、外国人市民との交流促進など、多文化共生社会の構築を目指す必要があります。

そのためには、市は行政として、今後どのような取り組みに力を入れるべきだと思いますか。

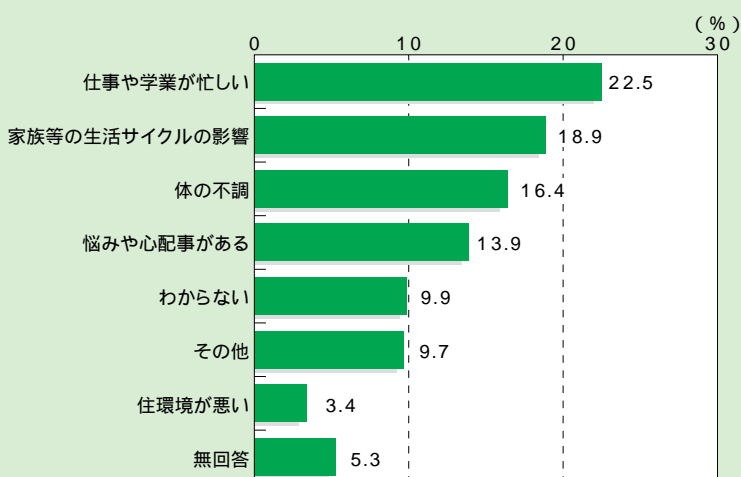
回答 「外国人市民が相談しやすい体制をつくる」が45.9%と最も高くなっています。

次いで、「相互交流の機会や場を増やす」が36.5%、「外国人市民が日本語や日本の文化・生活習慣を学ぶ機会を増やす」が35.3%と続いています。

相談しやすい体制をつくる 45.9%



仕事や学業が忙しい 22.5%



推計人口 48万1135人(女25万3299人、男22万7836人)
世帯数 20万4814 面積 100.18 km²
平成22年(2010年)1月1日現在

市は、まちづくりの基礎資料とするために「市民意識調査」を行い、市の施策について皆さんがどのように考えているのかを毎年、調査しています。

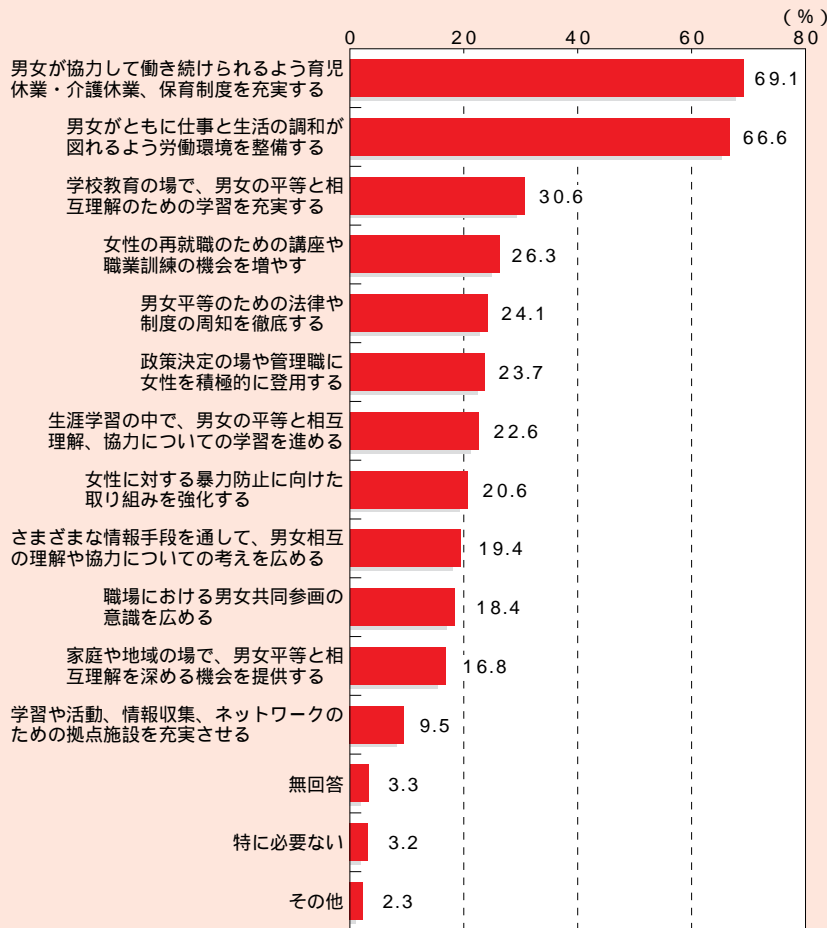
今年度は「睡眠」「男女共同参画」「墓地」「議会広報」「光化学スモッグ」「多文化共生」の6テーマを昨年9月に調査しました。皆さんからいただいた回答の集計がまとまりましたので、その一部を紹介します。

今後、回答者の性別や年齢などの要素による分析を加えた報告書を2月下旬に発行します。その内容は市立図書館などで閲覧できるほか、市のホームページ(アドレスはページ下参照)にも掲載をします。

問合せは市民相談課(0798・35・3100)へ。

市民意識調査結果

皆さんの声をまちづくりに



育児・介護休業などの充実 69.1%

質問 睡眠は、食事や運動と同様に心や体にさまざまな影響を与え、生活習慣病の引き金になることもあります。

医学上最も質のよい睡眠がとれるのは、午後10時から午前3時までとされています。市は、皆さんの睡眠を取り巻く環境を把握し、生活習慣の改善に向けた啓発などを検討していきま

回答 睡眠について不満足であると感じている人の理由について、「仕事や学業が忙しい」が22.5%と最も高く、次いで「家族等の生活サイクルの影響」が18.9%と続いています。

50歳代以下では「仕事や学業が忙しい」が最も高く、なかでも20歳代で45.9%と高い一方、60歳代以上では「体の不調」が最も高く、70歳以上では4割以上を占めています。

睡眠

質問 「男女が協力して働き続けられるよう育児休業・介護休業、保育制度を充実させる」(69.1%)、「男女がともに仕事と生活の調和が図れるよう労働環境を整備する」(66.6%)が上位を占めています。次ぐ項目は3割と上位2項目に比べると差が開いており、仕事と生活

回答 「男女が協力して働き続けられるよう育児休業・介護休業、保育制度を充実させる」は専業主婦で76.2%、男女がともに仕事と生活の調和が図れるよう労働環境を整備する」は有業主婦で75.1%と高い傾向がみられます。

質問

市は社会の対等な構成員として、性別に関係なくあらゆる分野に参加・参画し、個性と能力を發揮できる男女共同参画社会の実現に向けて取り組んでいます。

男女共同参画

そのためには、今後、国や県、市は、どのようなことに力を入れて取り組むことがよいと思いますか。